
まず始めに

Unify eWave Engine をインストールする前に、ここに記載されている内容に従ってください。

システム要件を満たしていますか？

Java Development Kit

Unify eWave Engine は、JDK 1.2.2 リリースか、またはそれ以上を必要とします。JDK リリースは、以下の URL よりダウンロードすることができます。

<http://www.unifyewave.com/jp/resources.htm>

Windows - 推奨プラットフォーム (UNIX も同様)

Access - 256MB メモリ、500MHz の Pentium、Windows 2000 / Windows NT 4.0 Server, Service Pack 4

Enterprise - 512MB メモリ、550MHz の Pentium(1 ~ 4 のプロセッサ) Windows 2000 / Windows NT 4.0, Service Pack 4

Windows - 最少プラットフォーム (UNIX も同様)

Access - 128MB メモリ、450MHz の Pentium、Windows NT 4.0 Server, Service Pack 4

Enterprise - 256MB メモリ、500MHz の Pentium(1 ~ 4 のプロセッサ)、Windows NT 4.0, Service Pack 4

Solaris のパッチ

Unify eWave Engine は、Solaris 2.6、または Solaris 7 と以下の表にある必須パッチが必要です。

下表内のパッチは、Sun Microsystems 社の販売代理店、もしくは Web 上からダウンロードすることができます。パッチをダウンロードするには、まず、<http://www.sun.com/solaris/java> にアクセスし、JDK リリースをダウンロードするためのリンクページに進みます。パッチは、JDK リリースと同じページよりダウンロードすることができます。

「Solaris version」の項目に記載された括弧内の数字は、'uname -r' コマンドからの出力結果です。各「Patch ID」の項目に記載されたハイフン '-' の後に続く 2 桁の数字は、そのパッチの Revision 番号です。下表では、この JDK と JRE リリースで最低限必要とされているパッチを示しています。これ以降の修正版 (Revision) は、問題なく使用することができます。

Solaris version	Patch ID	Description
2.6(5.6)	105490-05 必須	Linker patch
2.6(5.6)	105568-13 必須	Libthread patch
2.6(5.6)	105210-17 必須	LibC patch
2.6(5.6)	106040-10 必須	X input and output method patch (2)
2.6(5.6)	105633-21 必須	OpenWindows 3.6: Xsun patch (1)
2.6(5.6)	106409-01 必須	Fixes the Chinese Truetype fonts (3)
2.6(5.6)	105181-11 推奨	Kernel update (socket close/hang)
2.6(5.6)	105669-04 推奨	CDE 1.2: libDTSvc patch (dtmail)
Solaris 7(5.7)	106980-04 必須	Libthread patch
Solaris 7(5.7)	107078-08 推奨	OpenWindows 3.6.1: Xsun patch (1)

Adobe Acrobat Reader

Unify eWave Engine の各マニュアルを閲覧するには、Adobe Acrobat Reader を必要とします。Acrobat Reader は、以下の URL よりダウンロードすることができます。

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readermain.html>

ご使用のサードパーティ ツールがサポートされていますか？

以下は、Unify eWave Engine を動作確認したプラットフォームとサードパーティ製品のリストです。

オペレーティングシステム - Solaris 7、Windows 2000 / Windows NT 4.0 SP4 または SP5、RedHat Linux 6.1(Kernel Level 2.2.12-20)、Redhat Linux 6.2、Redhat Linux 7.0、SuSe 7.0、Caldera 2.3

JDK(JRE 含む)リリース - Windows NT 版 1.2.2-007 & 1.3、Solaris 版 1.2.2_007 & 1.3、Linux 版 1.2.2-007 & 1.3.0

Adobe Acrobat Reader 4.0 + Search

Apache Web Server - Win32 版 Apache 1.3.9 & 1.3.12、Solaris 版 Apache 1.3.9、Linux 版 Apache 1.3.9

Internet Information Server 4.0 / 5.0 (Personal Web Server)

iPlanet Web Server 4.0 か、またはそれ以上

Windows NT 版 & Solaris 版 Netscape Enterprise 3.6 SP3

JDBC ドライバ - Sybase jConnect 5.2、SimbaJDBC 1.0、Informix JDBC Driver 2.11、Symantec dbAnywhere Version 1.1a(build219)、Oracle JDBC Driver 8.1.6(Thin Client)、DBIntegrator 1.1

DBMS - Sybase 11.5.1、Informix 7.22、Windows NT 版 Oracle 8.0.5 & 8.1.5、UNIX Server 版 8.1.5、Unify DataServer 7.1

JMS プロバイダ - FioranoMQ, version 4.6

他のサーブレット エンジンを実インストールするか、または無効にする

既に、別のサーブレット エンジン(例えば ServletExec)がインストールされている場合、Unify eWave Engine をインストールする前に、それをアンインストールするか、または無効にしておく必要があります。

ServletExec から Unify eWave Engine にアップグレードする

ServletExec を使用しているサイトを、Unify eWave Engine 4.x を使用するようにアップグレードしたい場合、以下のドキュメントを参照して下さい。

http://www.unifyewave.com/jp/pdf/SE_Upgrade_J.pdf

旧 Engine リリースから再インストールか、またはアップグレードする

Unify eWave Engine を再インストールするか、またはアップグレードする場合、以下のドキュメントを参照して下さい。

http://www.unifyewave.com/jp/pdf/EJB_Upgrade_J.pdf

Linux 上にインストールするために RPM を使用する

Linux 上では、Unify eWave Engine をインストールする際、標準のインストール プログラム (setup.sh) を使用するよりも、RPM を使用することが可能です。

RPM インストールパッケージは以下の Linux プラットフォームでサポートされています。

- Redhat 6.1, 6.2, 7.0
- SuSE 7.0
- Caldera Open Server 2.3

まず、RPM インストール パッケージを実行する前に、Unify eWave Engine Web サイトから適切な RPM ファイルをダウンロードして下さい。

Unify eWave Engine application server : ewave_40ab.rpm
Unify eWave Engine web adapter : ewave_WebAdapter_40ab.rpm

インストールをコントロールするために、RPM インストールを実行する前に、以下の環境変数を設定することができます。

Unify eWave Engine application server 用 :

- unifywork = 作業ディレクトリ (UNIFY_WORK)
- SEport = デフォルトのアプリケーション サーバがリスンするポート番号 (1889)

Unify eWave Engine web adapter 用 :

- confdir = httpd.conf ファイルが置かれているディレクトリ (/etc/httpd/conf)
- SEinstance = デフォルトのアプリケーション サーバのサーバ名 (servlet)
- SEipaddr = デフォルトのアプリケーション サーバが配置されているマシンの IP アドレス (127.0.0.1)
- SEport = デフォルトのアプリケーション サーバがリスンするポート番号 (1889)
- applicationURL = J2EE Web アプリケーションの URL

Unify eWave Engine application server の RPMS パッケージをインストールする場合、以下のコマンドを使用して下さい。

```
rpm -ivh --relocate /opt/ewave=<New Location> ewave_40ab.rpm
```

Unify eWave Engine web adapter の RPMS パッケージをインストールする場合、以下のコマンドを使用して下さい。

```
rpm -ivh --relocate /etc/httpd=<New Location> ewave_WebAdapter_40ab.rpm
```

上の「--relocate」オプションは、パッケージのインストール場所をデフォルトとは異なる場所に指定することができる RPM の使用方法です。デフォルトのインストール場所は、次の通りです。

Unify eWave Engine application server : /opt/ewave
Unify eWave Engine web adapter : /etc/httpd

RPMS パッケージをインストールした後、インストールされたファイルの内 1 つを修正する必要があります。

- Redhat と Caldera Open Server プラットフォーム上では、/etc/rc.d/init.d/uehost

- SuSE プラットフォーム上では、/etc/rc.d/uehost

ファイル内で、%JAVA_HOME%の箇所をマシン上の JDK,JRE ホーム ディレクトリへの実際のパスへ変更して下さい。

application server 製品をアンインストールするには、標準の RPM コマンド ラインインターフェイスを使用して下さい。アンインストールする前に、管理サーバを停止する必要があります。以下のコマンドを使用して、管理サーバを停止することができます。

```
<UNIFY_HOME ディレクトリ>/bin/uehost -stop
```

Web アダプタ製品をアンインストールするには、Web サーバ構成ファイル (httpd.conf) 内を手動で、元の状態に戻す必要があります。オリジナル ファイルは、httpd.conf.bak、または httpd.conf.bak.N として保存されています。アンインストールする前に、Web サーバを停止する必要があります。